

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和元年度第4・四半期
(令和2年1~3月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和2年1～3月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和2年3月）	23
4. 特別調査「外国人・海外情勢と中小企業」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和2年1月～3月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	75	74
卸 売 業	25	23
小 売 業	37	37
サ ー ビ ス 業	47	47
建 設 業	31	31
合 計	215	212

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和2年1～3月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況は予想を上回る悪化、5期連続で厳しさが強まる。～新型コロナウイルスの影響も～

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-8.1（前期は-6.2）と、前期に比べ 1.9 ポイント低下し、5期連続で悪化して厳しさが強まっている。

業種別に見ると、製造業・卸売業で予想を上回って悪化し、不動産業は3期連続で好調感が後退した。

来期は、新型コロナウイルスの影響が各業種に及び、製造業・卸売業・小売業・サービス業で更に悪化すると見ており、建設業・不動産業は好調感が弱まると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-9.0	-13.0	-4.0	-14.2	-1.2
卸 売 業	-10.9	-14.7	-3.8	-18.2	-3.5
小 売 業	-18.8	-19.2	-0.4	-22.7	-3.5
サ ー ビ ス	-2.6	-2.8	-0.2	-5.1	-2.3
建 設 業	13.6	13.3	-0.3	7.9	-5.4
不 動 産 業	5.2	2.1	-3.1	1.2	-0.9
総 合	-6.2	-8.1	-1.9	-10.8	-2.7

西暦（年度）

<製造業>

業況は予想以上に悪化し、5期連続で厳しさが強まっている。売上額・受注残・収益ともに前期よりさらに減少幅が拡大した。価格面では販売価格がわずかながら下降へ転じ、原材料価格は上昇が弱まっている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に、「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位も前期同様変わらず、「販路を広げる」、「経費を節減する」となっている。

来期の業況は今期並かそれ以上の厳しさが続いて推移すると予想している。売上額・受注残・収益についても今期並の減少で推移すると見ている。

<卸売業>

業況は悪化度合が予想以上に強まった。売上額は予想を上回る減少となり、収益は前期並に低調に推移した。価格面では販売価格の上昇は前期並で推移したが、仕入価格は上昇幅が縮小し落ち着きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は変わらず、「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位も前期同様に、「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は更に悪化が拡大すると予想している。売上額・収益ともに一段と減少を強めると見ている。

<小売業>

業況は前期同様ながら厳しさを強める傾向にある。売上額は前期並の減少で推移し、収益はわずかに減少が強まった。価格面では販売価格・仕入価格の上昇は弱まりやや落ち着きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に、「売上の停滞・減少」、「大型店との競争の激化」、重点経営施策の上位2位も変わらず、「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は悪化度合を強め、厳しさが強まると予想している。売上額・収益ともに今期よりも減少幅が拡大すると見ている。

<サービス業>

業況は前期並の厳しさに推移している。売上額は前期並の減少が続き、収益もわずかに減益幅が拡大した。価格面では料金価格が前期並のゆるやかな上昇で推移し、材料価格も前期同様の強い上昇傾向が続いている。

経営上の問題点の上位2位は、1位に「同業者間の競争の激化」、2位に「売上の停滞・減少」「人手不足」が同率となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に、「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は悪化傾向を強めると予想している。売上額・収益ともに減少を強めて推移すると見ている。

<建設業>

業況は前期同様の好調感で推移した。売上額・受注残・施工高・収益ともに増加傾向が一服し弱含みで推移した。価格面では請負価格が前期並の上昇が続き、材料価格の上昇は弱まっている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に、「人手不足」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は、「経費を節減する」、「人材を確保する」の順となっている。

来期の業況は続いてきた好調感が弱まると予想している。売上額・受注残・施工高・収益のいずれも増加はしても大幅に縮小すると予想している。

<不動産業>

業況は好調感を維持するも3期連続で後退した。売上額・収益の増加はほぼ止まり、「増加」した企業と「減少」した企業の割合が近づいている。価格面では販売価格・仕入価格の上昇は弱まった。

経営上の問題点の上位2位は、「同業者間の競争の激化」、「商品物件の不足」、重点経営施策の上位2位は、1位に「情報力を強化する」、2位に「販路を広げる」「宣伝・広告を強化する」が同率となっている。

来期の業況は今期を下回って推移し、売上額・収益ともにこれまでの増加から減少に転じて落ち込むと見ている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。